

2. トピックス

中国から海外への旅行者数伸び悩みの要因について

中国から海外への旅行者数は2015年まで大幅な増加を続けたが、2016年以降は伸び悩んでいる。理由は、大宗を占める韓国と台湾への旅行者数が両国との関係悪化の中で大幅に減少したためと考えられる。この結果、韓国と台湾の経済ではGDPが1%程度押し下げられている。

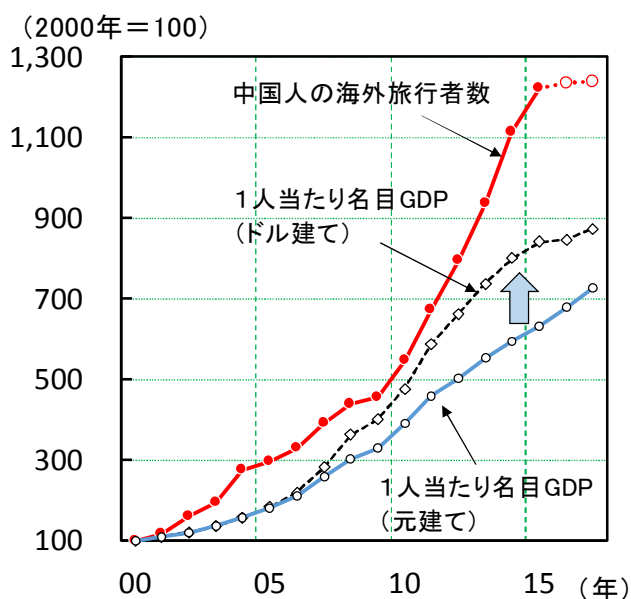
(1) はじめに

中国から海外への旅行者数は、2000年は1,047万人であったが、2017年1-6月には1億2,989万人（当方推計、年換算）まで増加した。図1は、この数字を、1人当たり名目GDPとともに、2000年=100とする指数で図にしたものである。それによると、海外への旅行者数は17年間に12.4倍に増加したが、この間に元建て1人当たり名目GDPは6.8倍に、ドル建て換算後の1人当たり名目GDPは8.5倍に増えている。このことは、中国においては、元建て1人当たり名目GDPが大幅に増えたことに加え、元の対ドルレートが元高・ドル安方向に変化したことが海外への旅行者数を大幅に増加させる要因になったことを示唆している。

もっとも、海外への旅行者数が大幅に増えたとはいえ、足許の2年間はほとんど横這いに近い状態にあり、2016年は前年比+1.3%、2017年1-6月は同+0.3%と過去15年間の平均伸び率(+18.5%)に比べるとかなり小さい。元高・ドル高によってドル建て1人当たり名目GDPの伸び率が鈍化したことも原因と考えられるが、理由はもう一つある。

それは、これまで大勢訪れていた韓国と台湾への旅行者数が大幅に減少したことである。

図1 中国人の海外旅行者数



(出所)中国国家统计局、各国統計

図2にあるように、これまで中国人が多く訪れていた4か国への旅行者数を図示してみると、日本とフィリピンへの旅行者は今でも増え続けているが、韓国は2017年には前の年に比べて▲373万人、台湾は2016年が▲67万人、2017年が▲94万人と大きく落ち込んでいる。

なぜ中国からの旅行者数が韓国と台湾でのみ大幅に減少したのであろうか。以下では、この点に焦点を当てて考えてみた。

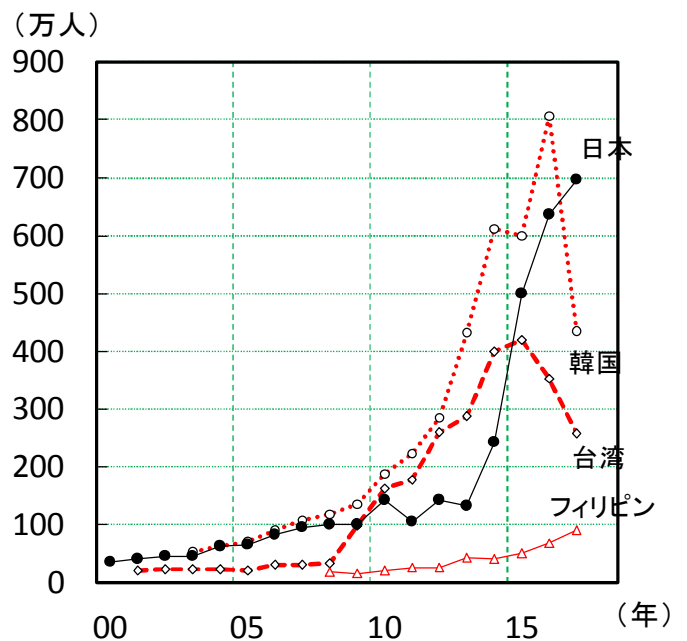
(2) 中国から海外への旅行者数の推移

図3は、中国人の主な海外旅行先10か国を並べたものである。2016年に中国人が最も多く訪れた国・地域は、香港の4,278万人で、全体の33.0%を占めていた。2番目はマカオの1,924万人(14.9%)、3番目はタイの876万人(6.8%)で、韓国(807万人、6.3%)は4番目、台湾(351万人、2.7%)は日本に次いで6番目であった。

しかし、先にみたように、2017年には韓国と台湾を訪れる人が大幅に減少した。それがどの程度際立ったものであるかは、次頁の図4が示している。

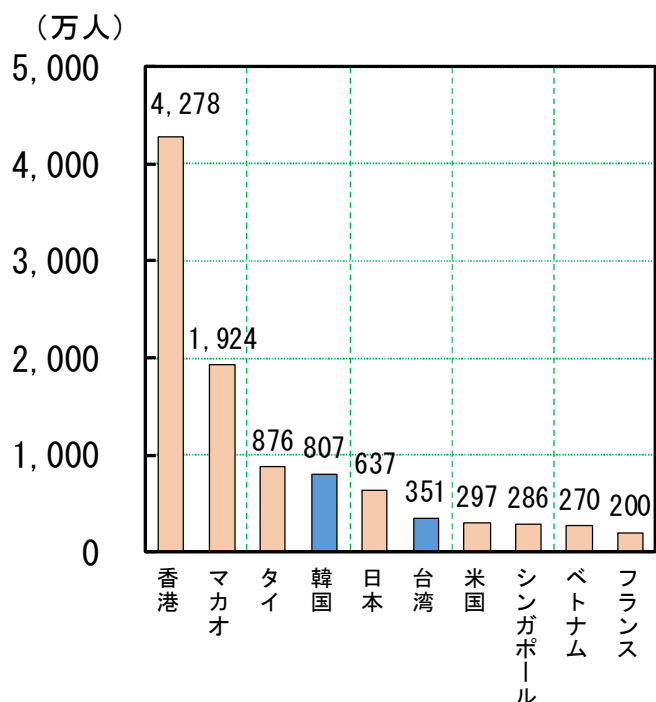
この図は2016年から2017年(1-7月平均)までの変化を見たものである。

図2 主要国別にみた中国からの旅行者数



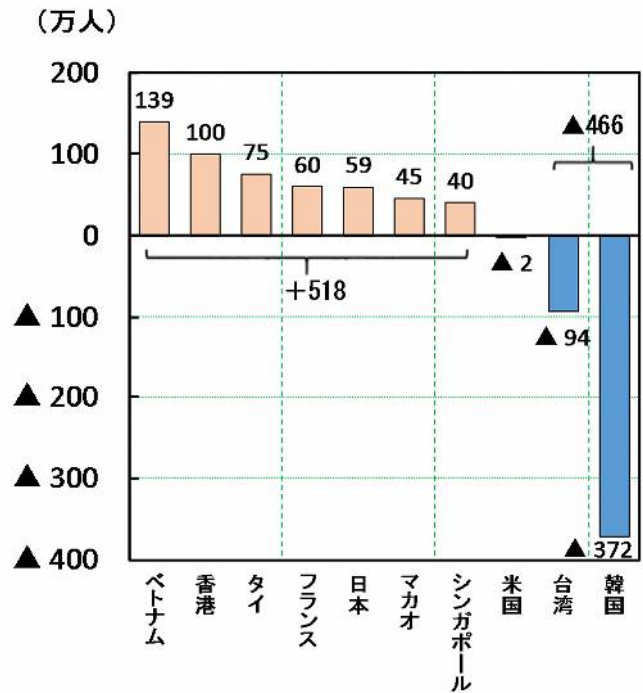
(出所)各国統計

図3 中国人が訪問した上位10か国(2016年)



(出所)各国統計

図4 上位10か国別の変化(2017年中)



(注)比較期間は2016年と2017年1-7月年換算の差。
(出所)各国統計

ベトナム(+139万人)、香港(+100万人)、タイ(+75万人)と、ほとんどの国で増加しているが、韓国(▲372万人)と台湾(▲94万人)では大幅に減少しており、とりわけ韓国の落ち込みが大きい。

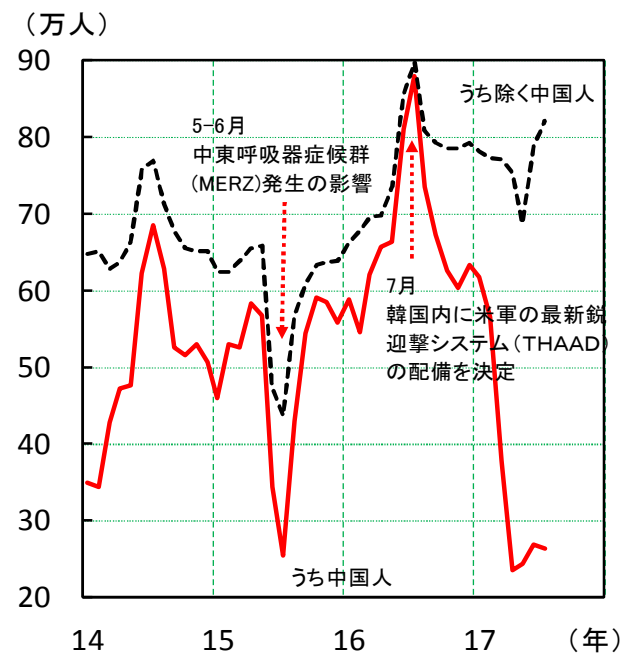
(3) 韓国への中国人旅行者数

図5は、韓国への旅行者数を、中国人と、除く中国人に分けて並べたものである。

韓国では、2015年5月から6月にかけて、ウイルス感染症の中東呼吸器症候群(MERZ)が大流行した。このため韓国への旅行者数は、中国人、除く中国人ともに大幅に減少した。

その後、落ち着きを取り戻し一時増加したが、2016年7月、北朝鮮問題の深刻化を機に韓国内に米軍最新鋭弾道弾迎撃ミサイルシステム(THAAD)を配備することになったため、再び中国からの旅行者数は30万人を割る水準まで大幅に減少し、今日に至っている。この間、中国人以外の旅行者数は80万人前後の水準を維持しているため、THAADの韓国国内への持ち込みに反発した中国政府が韓国への旅行者を制限したため、とみられている。

図5 韓国への海外からの旅行者数



(出所)韓国観光協会

(4) 台湾への中国人旅行者数

次頁の図6は、台湾への旅行者数を、中国人と、除く中国人に分けたものである。

2016年初め頃まではいずれも緩やかな増加傾向にあったが、中国人旅行者数だけはその後大幅に減少した。

なぜ2016年1月以降に台湾への中国人旅行者数が大幅に減り続けたかという、考えられる理由は台中関係の悪化である。

なぜなら、2016年1月の総統選挙で、中国との関係に距離を置く民進党の蔡英文氏が圧勝したからである。2016年5月の蔡総統の就任演説の際には中国政府は批判的な立場をとり、同年12月に蔡総統がアメリカ大統領就任前のトランプ氏と電話会談を行ったことにも中国は強く反発した。

(5) 中国人旅行者数減少の韓国、台湾経済に与えた影響

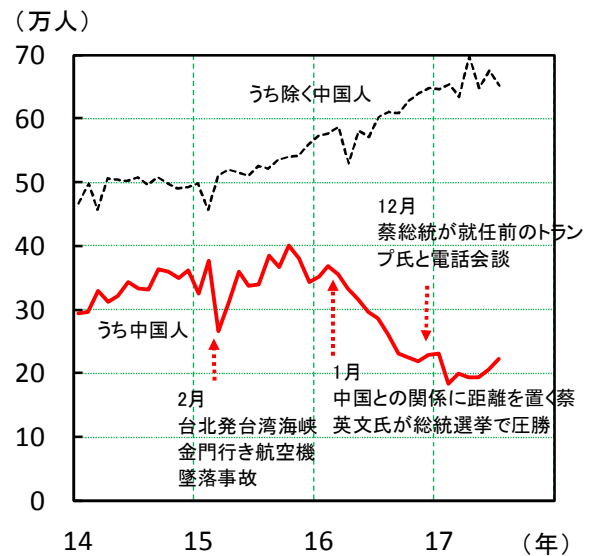
こうした中国人旅行者数の減少は、韓国、台湾経済に大きな影響を与えている。

韓国や台湾においては、海外旅行者が自国で消費(含むサービス)した金額は輸出にカウントされ、中国においては輸入にカウントされている(正確には輸出・入の中のサービス輸出・入)。

図7は、2017年4-6月期における中国の主要輸入国別の輸入金額を、前年比であらわしたものである。

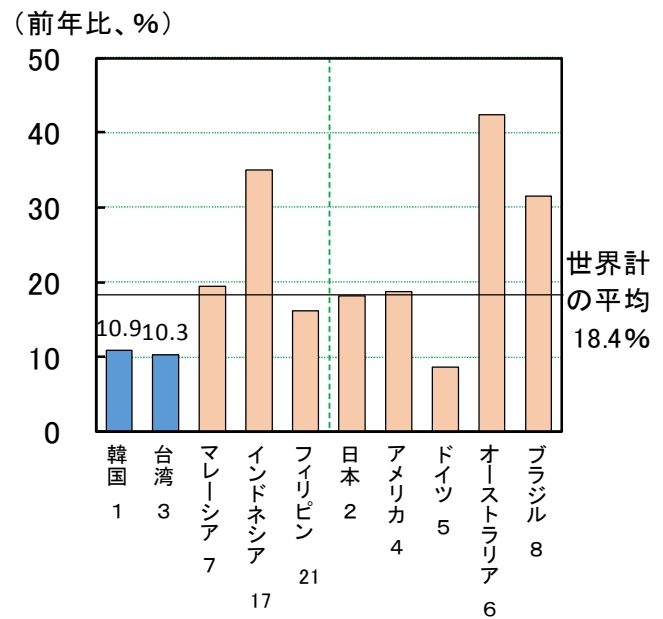
韓国は前年比+10.9%、台湾は+10.3%と、その他の国々に比べると明らかに小さな伸びに止まっている。平均が+18.4%であるから▲8%ポイント近く下回っている。

図6 台湾への海外からの旅行者数



(出所)台湾行政院主計総処

図7 中国の主要輸入国別輸入金額 (2017年4-6月期の前年比、人民元建て)



(注)国名の下番号は、2016年通年の輸入額の国別順位 (出所)IMF

韓国と台湾においては、地理的な事情もあり、中国輸出のウェイトが大きい。図8は、これらの国々の中国輸出のウェイトを図にしたものである。

台湾は26%、韓国は25%と突出して高い。日本も高いが18%である。輸出ウェイトが約25%の国で輸出金額が▲8%ポイント下回ると輸出は約▲2%ポイント(=25%×▲8%)押し下げられる計算になる。

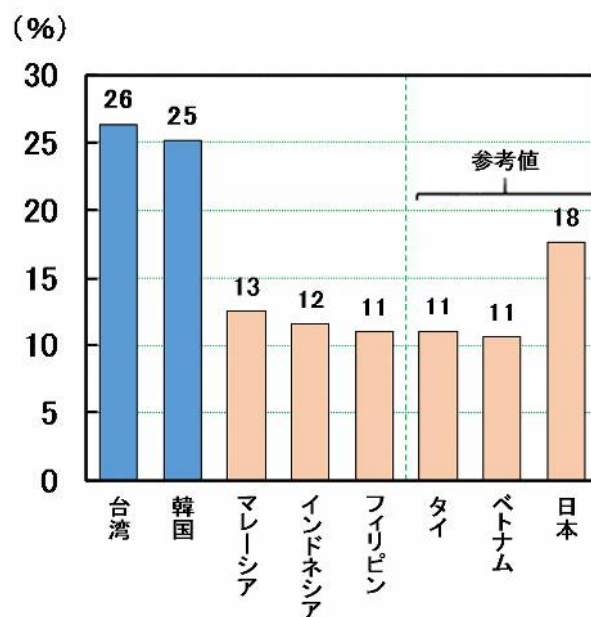
韓国は輸出ウェイトが非常に高い国で、名目GDPに占める名目輸出のウェイトは50%である(2016年)。

したがって、中国向けサービス輸出が他国並みであったこととの比較では、ちょうど1%ポイント(=50%×▲2%)押し下げられた計算になる。

台湾の名目GDPに占める名目輸出のウェイトはさらに高く68%である(同)。したがって、輸出が2%押し下げられると、名目GDPは▲1.4%ポイント(=68%×▲2%)押し下げられる計算になる。両国とも大きな影響を受けていることになる。

(2017年10月27日 京都総合経済研究所 小堀 潔)

図8 中国の輸出のウェイト (2016年)



(出所)IMF